

平成 3 0 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	坂城町
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	坂城町里山景観整備事業
事業費 432,000円 (うち支援金: 432,000円)		

事業目的

- (1) 地域の森林・林業の現状と課題
- ・松くい虫による被害が増加している。
 - ・里山における広葉樹等の整理伐採が急務となっている
- (2) 本事業の目的
- ・伐倒駆除を行い、被害蔓延を防ぎ、地域の森林づくりを推進する。
 - ・整理伐採が必要な広葉樹等を伐採し、森林の健全な保全管理を行う。伐採した木材はキノコ原木材として有効活用する。

事業内容

- (1) 実施場所 坂城町大字上平、大字坂城
- (2) 対象者 地域住民
- (3) 実施方法
- ・地域要望に応じた松くい虫の被害木の伐倒駆除を行う。
 - ・町内の森林で整理伐採が必要とされる広葉樹等を適宜伐採する。
- (4) 事業目標及び当年度事業量
- | | | |
|---------------------|------------|-------------------------|
| ①全体計画 (平成 30～34 年度) | ・被害木 100 本 | ・広葉樹等 50 m ³ |
| ②平成 30 年度実績 | ・被害木 28 本 | ・広葉樹等 10 m ² |

実施状況



事業効果

(1) 事業実施の効果

- ・ 松くい虫の被害木の伐倒駆除を行うことで被害蔓延を防ぎ森林の健全化を図り、土砂災害を防ぎ、水源涵養機能の増加に効果的。
- ・ 伐採した木材をキノコ原木材として活用することで、循環型の森林資源が可能となる。

(2) 継続性

- ・ 地域住民が参加することで自らの里山を守る自覚が促され、事業の継続性と発展性が期待できる。

(3) 普及性

- ・ 松林の健全化により、景観の保全と、松茸の産出で事業の効果が県民に対し視覚的に確認できる。
- ・ 地域の里山で伐採された原木を利用したきのこを販売することで県民に対し効果をアピールする。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

- ・ 5年間で100本の被害木伐倒の計画に対し、30年度は28本の実績があった。地域住民の参加による景観整備が進んでいる。

(2) 課題

- ・ 被害木が予想以上に範囲が拡大していることから、さらなる地域住民の参加が望まれる。

(3) 今後の取組方向

☒ 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・ 5年間で100本の被害木伐倒の計画に対し、30年度は28本の実績があり、計画どおり年間20本台の被害木伐倒が見込める。

☐ 事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐ 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成30年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

坂城町

No.	事業項目	事業名
2	みんなの暮らしを守る 森林づくり	坂城町森林景観整備事業
事業費 304,000円 (うち支援金: 303,000円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

地域の公園となっている森林において、伐倒・くん蒸処理後の松くい虫被害木の枯損木が放置されており、ウォーキングする住民の安全への不安や景観の悪化を招いている。

(2) 本事業の目的

枯損木を搬出し、チップ化することで適正な処理を行うことで、森林の景観保全、遊歩道の安全確保を図る。

事業内容

(1) 実施場所 坂城町大字網掛ほか

(2) 対象者 坂城町

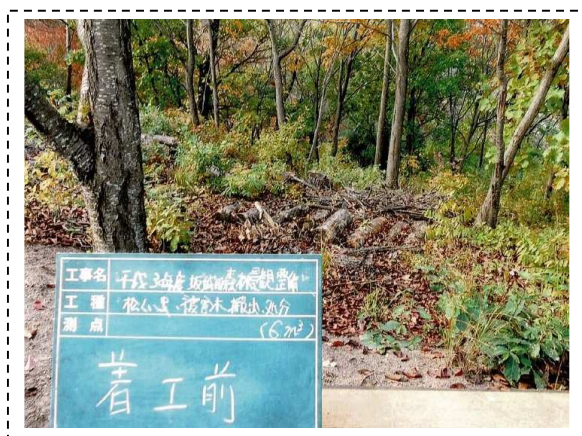
(3) 実施方法 現場から松くい虫被害木の伐倒駆除・くん蒸処理後の枯損木を搬出し工場でチップ化する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

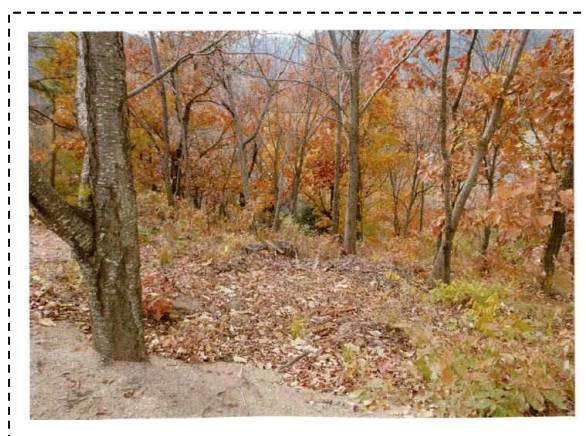
①全体計画 (平成30～34年度) 搬出チップ(破碎)処理 $5 \text{ m}^3/\text{年} \times 5 \text{ 年} = 25 \text{ m}^3$

②平成30年度実績 搬出チップ(破碎)処理 6 m^3

実施前



搬出処理後



事業効果

(1) 事業実施の効果

森林の景観保全と林内の安全確保とともに、枯損木のチップ化で森林資源を循環的に活用することが可能となる。

(2) 継続性

地元の森林整備を地元業者に委託することで、関心も高まり、事業の継続性と発展性が期待できる。

(3) 普及性

枯損木(駆除木)を撤去することで森林景観を保全する。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・ 5年間で 25 m³ (5 m³/年×5 ヶ年) の駆除木の処理計画に対し、30 年度は計画どおり 6 m³ の処理を実績することができ、遊歩道の安全確保及び景観保全が図れた。

(2) 課題

- ・ 被害の範囲が予想以上に拡大していることから、町内の景観保全を図るため更なる被害防除対策の強化が必要。

(3) 今後の取組方向

☒ 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・ 30 年度は計画を超える 6 m³ の処理を実施したが、今後も引続き実施して行く。

☐ 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐ 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)